

第4回 大 鳳 塾「潮陵のこころ」を継承するために(ご案内)

講 演 会

花守 浅利政俊氏と母校のシンボルとして咲く桜『潮陵』と『暁鐘』
---- 『潮陵のこころ』と岡田三郎(4期)に思いを寄せて----

日 時 平成 26 年 5 月 30 日(金) 16:45 ~ 18:15
場 所 潮陵高校記念館(2階ホール)

① 16:00 ~ 16:30 潮陵高校記念館受付(記念館 1 階ホール)

・ ・ 校地内、桜『潮陵』・『暁鐘』見学の予定。雨天
中止の場合あり。桜の花は散っていると思われます。

※校地内の桜『潮陵』、『暁鐘』などを見学に参加される方、受付を済ませ
て、16:10 に、記念館前にお集まり下さい。

② 17:00 ~ 18:15 講演会 ・ ・ 潮陵高校記念館(2階ホール)

※ 16:45 より開講式が始まる予定です。

次 第

I 開講式 ご挨拶 小樽潮陵高等学校長 湯田 恭丈

II 17:00 ~ 18:15(記念館・二階ホール)

講 演 桜『潮陵』と『暁鐘』
---- 『潮陵のこころ』と岡田三郎(4期)に思いを寄せて

講 師 花守 浅利 政俊 氏

①参考テキスト資料 同窓会誌『潮陵』36・79号などから準備いたします。

②協力 ・ ・ 広報『潮陵』編集委員会 ・ 演劇部、音楽部、新聞局他

III 閉講式 ご挨拶 小樽潮陵高等学校同窓会長 新倉 吉晴(54期)

運 営 伊藤 一郎(57期)・佐藤禎洋(72期)・相内隆二(72期)

参加申込方法 ・ ・ 下記のアドレス、あるいはお電話、FAX にてお申し込み、お問い合わせ下さい。ご参加をお待ちしております。

(お申し込みの際は、ご住所・お電話番号・卒業期をお書き下さい。一般の方の参加もお待ちしています。お誘い合わせの上、ふるってご参加下さい。なお、会場の広さの都合もあり、60名を定員とさせていただきます。また、駐車場スペースが手詰まりですので、お車でのご来校はご遠慮下さい。)

〒 047-0002

小樽市潮見台 2-1-1 北海道小樽潮陵高等学校 記念館事務局

TEL 0134-31-4820 Fax 0134-31-4821

メールアドレス

choryoclub@peach.ocn.ne.jp(担当 相内)

携帯電話 080-5580-0147(相内)

ご不明の点はお問い合わせ下さい。

大正 9 年制定 作詞 岡田三郎(4期) 作曲 白井規矩郎

ああ潮陵に 暁鐘は鳴る

小樽湾頭 ひびきほがらか

鳳中(高)校の たかきほまれを

輝く朝日と とともに歌はん

徳と学とに 幾春秋や

はげみきそひし 我等が誇り

栄光あまねし 北海の地に

いやあふるるよ 希望の若血

煙波はるかに 西はシベリア

わがこぐ舟は 涯なく行かん

颯風よ叫べ 波濤よくるへ

理想の旗を かかげて行かん

○岡田三郎文学碑・碑文（小説『冬』より）

この世に生きのびて行くうえに、何をめざし、何に救いをもとむべきか、想いきわめようとするさえ身の程知らぬおこの沙汰であり、かつまた自分ごときに到底考えおよびがたき難事ではあるが、おおかたはその日暮らしの生計にいそしむ市井人に伍し、市井ありきたりのままなる悲喜憂楽の人情を虚心にわかちあうことも得れば、そのときすくなくも我が生き行く生に意義あるかと感じなされ、業苦の身も一時は救われるがようなる喜びありとなすはこのほどの所存である。（松前公園・第二桜見本園）



さくら

花守 浅利政俊氏と母校のシンボルとして咲く桜『潮陵』と『暁鐘』

---- 『潮陵のころ』と岡田三郎(4期)に思いを寄せて----

明治 35 年の星川座(芝居小屋)跡を仮校舎として開学した小樽中学は、小樽高等学校、小樽潮陵高等学校と、潮見が丘のこの地に教育の舞台を求め続けた。時代の変遷や激動を孕む 110 年を超える星霜の移り変わりを、その時々々の学生、職員は、いつも真剣な眼差しで時代をみつめ、そのまぶたに映る母校の姿を、生涯にわたって、いつでも心のよりどころとしてきた。

そして岡田三郎作詞の校歌「あゝ潮陵(朝の海の見える丘)に」と歌われた詩は、この学校の幾つもの春秋の彩りの中、常に自己の青春の証、心の歌として歌い継がれている。言うまでもなく、この地に春、淡い淡黄色をおびながら白く咲きほこる桜の『潮陵』(昭和 41 年 5 月 18 日 浅利氏開発、育成)、それよりも濃く、赤く、多くの花びらをまといながら咲く、桜『暁鐘』(昭和 40 年 5 月 13 日 浅利氏開発、育成)は、明治時代に松前に生まれ、松城尋常小学校、庁立小樽中学に学んだ岡田三郎(4期)作詞の校歌(大正 9 年に制定)より命名された。おそらく、校歌の歌詞の中の言葉を名前に持つ桜は、全国広しと言えども、この『潮陵』と『暁鐘』だけなのではないかと思う。

この桜は、花守 浅利政俊氏(郷土史研究家 日本花の会)が、昭和 28 年より昭和 50 年まで松前で小学校にお勤めの時に、松前教育園創設の委嘱を受け、準備、調査、研究の際に新品種の開発に取り組んで生まれた。

本校が平成 4 年の創立 90 周年を終え、平成 8 年 5 月の新体育館落成の折り、同窓会函館支部会長 下道弘明(50 期)、本部同窓会長佐藤公亮(49 期)、事務局井筒健三(47 期)他の連携で、昌子守彦校長の時に植樹された。植樹された後、今日に到るまで、野津寿一校長など多くの同窓、教職員、生徒の深い思いのもとに、母校潮陵のシンボルとして大切にされたきた。

岡田三郎文学碑の建立に奔走された浅利政利氏は、平成 2 年 10 月 27 日の道新(日曜版)の読者欄に「樽中ボーイ、潮陵レディよ、除幕式で、校歌『あゝ潮陵に』を歌おう」と呼びかけた。その浅利政利氏(47 期)の努力による岡田三郎文学碑建立の記事の掲載は、その経緯を知らない多くの樽中、潮陵出身者を驚かせたという(蓑田崇(45 期) 同窓会誌『潮陵 36 号』)。

翌、平成 3 年 11 月 3 日、松前町の桜第二公園の小高い丘に建立された文学碑には、岡田三郎の小説『冬』の一節が刻まれた。芸術にその生命をささげ、一市井の人として真実に生きようとした岡田三郎の文学に対して、同じ樽中卒業の後輩、伊藤整(17 期)は、「にがくかみしめてのちに生まれた生の味」と評した。

岡田文学に感銘する浅利氏(47 期)の努力によって建てられた文学碑も、母校の四季を彩る桜『潮陵』、『暁鐘』も、明治の樽中の教育を受けた岡田三郎の校歌『あゝ潮陵に』を種として、いつの時代も私たちの心の大切なよりどころとして、また、潮陵スピリッツのシンボルとしていつまでも存在し続ける。

(大鳳塾運営委員)

